平成25年12月６日（金曜日）

午前10時１分開会

会議に付した案件

○意見交換会

子育てネットワークみやざき

１．活動の概要、地域で子育て支援活動を展開する中で感じている課題等について

○協議事項

１．次回委員会について

２．その他

出席委員（11人）

委員長	西村　賢
副委員長	後藤哲朗
委員	中村幸一
委員	井本英雄
委員	押川修一郎
委員	二見康之
委員	清山知憲
委員	太田清海
委員	河野哲也
委員	渡辺　創
委員	前屋敷恵美

欠席委員（なし）

委員外議員（１人）

議員	福田作弥

意見交換のため出席した者

子育てネットワークみやざき　代表	留野直樹
親子ふれあい団体あっぷっぷ　代表	岩切幸子
子育てサロン　どんぐり代表	曽山喜美
コミュニティサロンままのて代表	原田陽子
NPO法人MIYAZAKIうづらａｉクラブ　理事	宮崎幸江
ＮＰＯ法人みやざきママパパhappy　代表	二見志信
NPO法人みやざき子ども文化センター　代表	片野坂　千鶴子
宮崎県立看護大学小児看護学教授	花野典子

事務局職員出席者

政策調査課主任技師	山口大吾
政策調査課主査	深谷真紀

○西村委員長　おはようございます。ただいまから宮崎のこども対策特別委員会を開催いたします。

まず、本日の委員会日程でありますが、お手元に配付の日程（案）をごらんください。

本日は、宮崎市内の子育て支援団体ネットワーク組織である「子育てネットワークみやざき」の方々に御出席をいただき、それぞれの団体がふだん、地域で取り組まれている子育て支援の活動や、そういった活動を展開されている中で感じていらっしゃる課題等について意見交換をしたいと考えております。

続いて、４の協議事項でありますが、次回委員会の調査事項等について御協議いただきたいと考えています。

以上のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○西村委員長　それでは、そのように決定いたします。

それでは、執行部入室のために、また、子育

てネットワークみやざき入室のために暫時休憩をいたします。

午前10時２分休憩

午前10時３分再開

○**西村委員長**　委員会を再開いたします。

まず、一言御挨拶を申し上げます。

私どもは、宮崎県議会宮崎のこども対策特別委員会と申します。

私が、委員長を務めております日向市選出の西村賢と申します。どうぞよろしくお願いをいたします。

私たちは、ことし１年間、特別委員会におきまして、県内の子供をめぐる環境、子供の状況を１年間、調査をしてまいっております。また、子供のライフステージにかかわる施策についてもいろいろ調査をしているところでありますけれども、本日、御出席された皆様におきましては、心から感謝を申し上げます。

本日、お集まりいただいた皆様方は、ふだんより地域の子育て支援等の活動を一生懸命にされている方々を中心に集まっていただきました。その中で、自分たちの活動を説明していただくとともに、また、ふだんからの課題等について忌憚のない御意見等をいただければと思います。

きょうは、短い時間でありますけれども、意見交換が充実できますように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、座って委員の紹介をしたいと思います。

隣が、延岡市選出の後藤哲朗副委員長です。

続きまして、こちらになりますが、都城市選出の中村幸一委員です。

延岡市選出の井本英雄委員です。

西都市・西米良村選出の押川修一郎委員です。

都城市選出の二見康之委員です。

宮崎市選出の清山知憲委員です。

右側になりますが、延岡市選出の太田清海委員です。

延岡市選出の河野哲也委員です。

宮崎市選出の渡辺創委員です。

宮崎市選出の前屋敷恵美委員です。

それでは、本日、御出席いただきました皆様の御紹介をさせていただきます。

「子育てネットワークみやざき」代表の留野直樹さんです。

「親子ふれあい団体　あっぷっぷ」代表の岩切幸子さんです。

「子育てサロン　どんぐり」代表の曽山喜美さんです。

「コミュニティサロン　ままのて」代表の原田陽子さんです。

「ＮＰＯ法人ＭＩＹＡＺＡＫＩうづらａｉクラブ」理事の宮崎幸江さんです。

「ＮＰＯ法人みやざきママパパｈａｐｐｙ」代表の二見志信さんです。

「ＮＰＯ法人みやざき子ども文化センター」代表の片野坂千鶴子さんです。

「宮崎県立看護大学小児看護学」の花野典子教授です。

それでは、「子育てネットワークみやざき」様から、簡単に活動の内容を説明いただきたいと思います。よろしくお願いをいたします。

○**留野代表**　おはようございます。私は、「子育てネットワークみやざき」代表の留野直樹です。本日は、宮崎のこども対策特別委員会という貴重な会議に参加させていただき、まことにありがとうございます。

「子育てネットワークみやざき」では、先日、11月の16、17日に、宮崎県と協働しまして、「未来

みやざき子育て応援フェスティバル2013」を開催いたしました。

このフェスティバルにおいては、行政、民間企業、市民活動、ＮＰＯなど、宮崎県内で子育て支援活動を行っている78の団体が発表と展示を行いました。今まさに、子育てに奮闘している保護者の皆様へ向けて、これらの活動を広く知っていただき、必要に応じて活用していただくということと、また、知人の方への紹介、口コミなどを通して、支援を求めている保護者の方への情報発信ということを主たる目的として行いました。

宮交シティ内の３会場で開催いたしまして、約4,000人の御来場をいただき、当日は、西村委員長も御来場いただきましたことを感謝申し上げます。出展されている支援団体の皆様も、議員の皆様の目に触れることで士気も高まり、より積極的なＰＲができましたことを、この場をおかりして感謝申し上げます。

「子育てネットワークみやざき」は、ここに並んでおります団体も含めて、内容の異なる支援をしている団体の集合でございます。本日の本題となります意見交換の前に、子育てネットワークとはどのような活動団体かということを簡単に御説明させていただいて、各参加団体の代表からもそれぞれの活動について一言ずつ紹介させていただいた上で、意見交換会に移させていただきたいと思います。

では、「子育てネットワークみやざき」について、片野坂より御説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

○片野坂代表　「子育てネットワークみやざき」の事務局をしております片野坂でございます。まずは、この機会を与えていただきましたことにお礼を申し上げたいと思います。

資料に沿って少し説明をさせていただきます。宮崎のこども対策委員会資料、「子育て支援のこれから」ということで、「子育てネットワークみやざきの目的と経過」ということで、私たちは、子どもの育ちと子育てについて関心を持ち、地域で活動している団体です。

目的としましては、子育て支援団体の交流や情報交換をしながら、地域の支援のあり方を考える機会にするということで、平成16年度にこの団体を立ち上げたところでございます。

現在17団体ということで、月１回程度の会議を開催しながら、地域の子育て支援団体が点から面になるような形でつながろうというふうに思っております。

次のページ、２ページですが、「子育てネットワークみやざきの加盟団体」ということで、宮崎市内の団体が多いのですが、今17団体で、きょう、そのうちの６団体が参加をしております。実行委員会の様子等が写真に出ております。

これまで、「子育てネットワークの活動について」ということで、３ページに経過を書いております。平成14年度に、これは地域活動クラブ連絡協議会が実施したものですけれども、「子育て支援メッセ」ということで、やはり支援団体がまとまるほうがいいじゃないかということで、平成14年度にメッセを開いたところです。

そして、16年度に「子育てネットワーク会議」を立ち上げまして、17年、18年と、国からの助成等をいただきましてフェスティバル等々を開催してきたところでございます。

平成22年度から25年度、今年度までです。宮崎県と協働をしながら子育てフェスティバルを開催したところでございます。県と協働をすることで広がりもありますし、企業の参加等や団体の参加もふえて、先ほど申し上げましたよう

に、4,000人を超える来場をいただいたところでございます。情報の発信が十分にできたのではないかなというふうに思っております。

また、重ねて25年度には、今、非常に必要とされておりますファミリー・サポート・センターの担当者会議も、18市町村の担当者を迎えて実施したところでございます。未設置の地域に関しましても、少し働くきっかけができたのではないかなというふうに思っております。

非常に簡単でございますが、「子育てネットワークのこれまで」ということで、一応ここで説明を切らせていただいて、各団体から団体の紹介をしていただきたいというふうに思います。それでは、先ほど紹介をいただいた順番にどうぞ、お願いいたします。

○岩切代表　座ったままで失礼いたします。ページの25ページにあります「親子ふれあい応援団体　あっぷっぷ」の岩切と申します。

私たちの団体は、2008年に設立しまして、「赤ちゃんの五感を使った触れ合いで親子のきずなを深める」をモットーに活動しています。触る育と書いて「触育」ということを主に考えて、「ふれあい遊び」、「手遊び」、「歌」などをいろいろしています。

その中でちょっと疑問と悩みというか、思うのは、最近のお母さんたちから遊び方がわからないとか、情報がいっぱいあり過ぎて何が本当なのかわからないということ、あと、支援センターはたくさんありますが、その中で職員の質が個々によって違うということをよく相談されます。ですから、私たち支援者がよかれと思ってしたことも支援ではないという形になったりすることもあります。そのようなこともあって、統一した情報をお母さんたちに発信することが大事なのではないかということ、あと親たちももっと学ぶ機会があったほうがいいのではないかということを常々感じております。

私からは以上です。ありがとうございます。

○曽山代表　失礼いたします。「子育てサロンどんぐり」と申します。26ページを見ていただけますでしょうか。

「楽しく、子育てをしていますか」と書いていますが、子育てというのは、子供は本当に生まれた当時はすごくかわいくて本当に天使なのですが、もう毎日の生活が全て育児ですので本当に大変な作業なんですね。その中で、ああ、こんなこと言っちゃったらどうだろうかとすごく不安が、もう私たち経験者からすると単純な疑問がいっぱいわいてきて、誰か相談したいのだけれどという方がいっぱいいらっしゃいますね。それで、もう本当に赤ちゃん状態です、お母さんたちも。その中で、私、今67歳になりましたが、自分の経験してきた育児がお役に立つんじゃないかなと思って、近くの市立公民館で活動させていただいております。

日ごろしている活動では、最初、30分ぐらいに手遊びしながら、ちょっと今、近ごろの政治情勢だったり、例えば選挙があるときにはお母さんたちに選挙の大事さをお話しします。選挙って、女性は特に選挙権がなかったんですよって、だから大事にして、選挙に行くことが自分がやっぱり自立した女になることですという話をすることもあります。お天気によっては、きょうは雨が降るからぐあいが悪いけれど、こういうときはどんなふうに過ごすという話の中で、雨が降ったら喜んでいる人がいっぱいいるんだよという話をします。それで、前向きに生きていこうっていうふうな話をします。その次に、音楽療法士がおりまして、音楽療法をしながら子供たちと一緒に遊びます。その遊んでいる中で子

供たちの様子を見て、ああ、ああいう行動はこうなんだよ、ああなんだよということを終わった後で反省をしながらお母さんたちと教え合っております。ふだん、やはり育児というものは、教科書はいっぱいあるんですけれど、実際自分の子供に合った育児法がなかなか見つからなくて困ってるお母さんがいるので、結構喜ばれているのかなと思って自負しておりますが、なかなかボランティアさんがふえませんので、ちょっとそこのところは、いつも悩みです。

ありがとうございました。

○**原田代表**　済みません。こんにちは。「コミュニティーサロン　ままのて」の原田と申します。

27ページを見ていただきますと、私どものお店の紹介が載っているところがあると思いますので、お目を通していただきたいと思います。

私は、ことし57歳になります。世の中でいうシニアで、団塊というところに来まして、よく言われております就活という言葉を、皆さんも御存じだと思います。50歳を過ぎたころから、妻として主婦として母親として何か手があいて一段落したときに、自分自身のキャリアを生かして社会とかかわりたいと思うようになり、仕事を探し始めたんです。そのときに、じゃ、何ができるかと考えましたときに、キャリアを生かしたことで皆さん、若い子育て世代の方たちのお手伝いができたらいいのではないか、そう思いまして、宮崎県の男女共同参画課さんのチャレンジ相談室、そちらを利用させていただきまして、いろんなアドバイスを受けた上で、商工会議所さんのバックアップをいただきまして、平成23年の４月に中心街の橘通東４丁目のほうで、子育てサロンで多世代交流型の託児サロン「コミュニティーサロン　ままのて」というものを起業させていただきました。

いろいろなところからお声とアドバイスをいただきながら、こちらにもいらっしゃる子ども文化センターさんの片野坂さんやネットワークの皆様方のアドバイスをいただきながら、今日までいかせていただいてるんですが、やっていることといいますのは、多世代の方が集まっていただくために、いろんな活動の講習会というものを、20から26講座、毎月やらせていただいております。その横で子供さんを預かりながらという託児スペースをやっておりますので、ママたちももちろんいらっしゃるんですが、中心街に最近はふえていらっしゃるシニアの方たちもよく集まっていただくんです。

その方たちの声をお聞きしておりますと、やはり子育て世代の方たちは核家族でいろいろな方たちの情報を聞くのがすごく面倒くさいと思われる、そういう世代の方たちが育ってらっしゃる。シニアの方たちはといいますと、中心街ですから一戸建てではなくて集合マンションに住んでいらっしゃいますので、横に住んでる御家族に何か口を出そうものなら何となく敬遠される、まちを歩いていて、子供さんがベビーカーに乗っているのでお声をかけようとすると、何か変人扱いをされて、逆に煙たがられてしまう、そういった言葉をいただきながら、でも自分の孫はというと遠方に暮らしている。じゃ、小さい子供たちとどうやって接したらいいのかわからない。でも、何となく時間はあるから手伝いたいのよね。そういうマンパワーという財産を感じるんですね。そういったことを感じながら、近くにあります商店街さんはどうかというと、子育て世代の方たちとか皆さんに来ていただきたい、そういう問題を抱えていらっしゃるので、では、私がそういうお声を聞くうちにだんだんと、私どもの子育て支援者というのが中心街で

何ができるんだろうと感じましたときに考えたことは、その方たちをつなぎ合わせること、それではないだろうかという使命を今、感じております。

そういったことで今、やらせていただいてるうちに、私どものほうに受講していただいた方たちとか講師の方たち、そういった方たちが私が民間で１人で、個人企業で立ち上げましたので、その大変さをわかっていただいて、ことし10月28日にＮＰＯ法人をつくることができまして、ただいま申請に入っております。ようやく来月あたりには認可がおりるんではないだろうかというところに来ております。団体を組むことによって、よりもっとたくさんに皆さんの方たちにいろいろなことを情報提供できるのではないか、そう思いまして、ＮＰＯさんのお手伝いとかもさせていただきまして、ことしは県職員の方たちのまち歩き、そういった中にも私どものほうを御利用いただきまして、皆さんの、県職員の方たちの声もいただきながら、楠並木ちゃんねるとかを若いママたちに、すごくおもしろいよっていう感じで情報を提供させていただいております。そういった感じで日々、子育て支援という、ままのて流の子育て支援というものをただいま取り組まさせていただいているところです。

どうも御清聴ありがとうございました。

○**宮崎理事**　おはようございます。「ＮＰＯ法人ＭＩＹＡＺＡＫＩうづらａｉクラブ」と申します。佐土原町にあります。私のほう、広報活動をしておりまして、理事をしております。

資料のほう、28ページにございます。活動のほうは、主に子供の活動を中心にしておりまして、また、総合型地域スポーツクラブといたしまして、大人の対象のスポーツ教室だとか文化教室も行っております。また、ふれあい農園活動などを行いまして、地域のお祭り、イベントにも参加させていただいております。

事務局のほうでコミュニティハウスうづらの家といたしまして、気軽に参加、遊びに来ていただけるようにということで、「赤ちゃんの駅」だとか、あと子育て応援カード施設ということで登録させていただいております。「赤ちゃんの駅」といいますのが、こういったフラッグやステッカーを、授乳やおむつがえができる施設として、こういったものを掲げさせていただいているのですが、県内に今、300ほどあるそうです。それで、子育て応援カードも広く今、周知を図っているところですが、こちらのほうも、もっと周知していただけると、皆さん気軽に御利用できるんじゃないかと思っております。

皆さんが課題としてるところは同じなのですが、支援センターとかに来れない方々、こもっている親子の方々をどう引き出していくのか、また、呼び込めていけるか、そういった方々にぜひ来ていただきたいなと思っておりまして、こういった「赤ちゃんの駅」を登録、施設を広く周知をお願いしたいと思ってるところであります。どうぞよろしくお願いいたします。

また、県や市の広報などに子育て支援団体の情報などをぜひ発信していただきたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○**二見代表**　では、続きまして、29ページをごらんください。「特定非営利活動法人みやざきママパパｈａｐｐｙ」理事長の二見志信と申します。よろしくお願いいたします。

「みやざきママパパｈａｐｐｙ」は、平成15年に、前理事長の長友宮子が子育て情報サイト「ぎんのへや」を立ち上げ、ママ友づくりのイ

ベントなどを行っていたのが始まりです。平成18年に「みやざきママパパｈａｐｐｙ」に名称を変更し、平成22年に、特定非営利活動法人となりました。スタッフは全員、子育て真っ最中のママとパパ、仕事や育児、家事の合間に活動しております。

私たちは、「子どもがｈａｐｐｙになるために、ママパパがｈａｐｐｙになろう」を合い言葉にしていますが、ママパパが幸せで笑顔でいてこそ、子供も笑顔でいられるのではないかと思っております。

子育てに必要な情報が紙媒体で欲しいとのママからの声で、このフリーペーパー「ミヤマパ」が誕生しました。これがことしの７月で７年目に入っております。また、年に４回の発行をしているんですけれども、それでは伝え切れない情報というものがございますので、それをインターネットテレビで、プラスアルファの情報を月に２回、放送しております。当事者目線でつくられるフリーペーパーやインターネットを使った子育て情報の発信以外にも、イベントや交流会などを開催しております。

私自身が小学１年生と、今月２歳になる女の子の母親です。本日は、当事者の立場からとしても情報交換させていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○片野坂代表　それでは、「ＮＰＯ法人みやざき子ども文化センター」の御紹介をさせていただきます。

30ページになります。「みやざき子ども文化センター」は、2000年に法人の手続をいたしまして、県からの認証を受けて、今年度14年目に入ったところでございます。

私たちは、子どもの成長を一番支援しながら、いろいろな活動をしているわけですけれども、現在のところ指定管理と委託等を受けながら子供たちの現場に出ております。田野の地域子育て支援センター、それから田野の児童センター、きよたけ児童文化センター、それからみやざきアートセンターというような指定管理と委託を受けながら、子供たちの育ちのところに関心を持っています。

一番大きくは、「子どもの文化」というところで、子供たちにとっての最善の利益を一番考えながら、人との出会いをたくさんつくっていただく機会をつくる、体験活動を十分にしていただくというような機会を持ちたいなというふうに思っております。

文化センターとして、本当に小さな団体ですけれども、みんなと力を合わせることによって、また、子育てについて考える機会ができるんじゃないかということで事務局を担っているところでもあります。

簡単ですが、済みません。

○花野教授　県立看護大学の花野と申します。よろしくお願いいたします。

私どもの大学は、地域に開かれた大学ということを目指しておりまして、私も小児看護学というものを担当しながら、できれば地域のお子さんたちに健やかに育みを提供したいということで、大学が始まりまして15年になりますが、大学に赴任してきて以来、ずっとそういう形で活動させていただいております。

最初は、大学におもちゃをいっぱい広げて、31ページのところにありますように、「おもちゃ広場」という遊びの場を提供するということで、大学の施設を使わせていただきながら細々とやっておりました。それだけではどうも何となく不全感がありまして、片野坂代表とつながりまして、この子育てネットのほうで一緒に活動

をさせていただきながら、今やっているというところです。

最近のお母様たちの様子やお話を聞くと、昔は多分世代間で伝承されてきた、例えばおむつをどうやって外したらいいのかとか、それから母乳は飲ませたほうがいいのか、ミルクのほうがいいのかとか、それから保育園にはいつ入れたらいいんですかとか、あとは、今、予防接種のことがいろいろ変わってきておりますので、そういったこともあって、予防接種はどうやって受けたらいいんだろうか、受けないほうがいいんだろうか、受けさせたほうがいいんだろうかというような、具体的なお母様たちの声を聞きながら、私たち大学には専門職、看護職がおりますので、そういう声を聞きながら、少しずつでもお母さんたちに楽しい子育てを提供したいということで、今、きよたけ児童文化センターのほうで、週に２回なんですけれども、また、「おもちゃ広場」というものをさせていただきながら、たくさんのお母様たちに来ていただいて、私のところに来るのは主に支援センター等に行かれないようなお母さん、要するに、もう団体がある程度決まった方が行っているようなところにはちょっと敷居が高くて行かれない、でも、何かあそこでおもちゃをやってるし、楽しそうだっていうようなお母様たちが来てくださって、そういう相談を細々としていただいております。

私たちがモットーとしているのは、お母様をとにかく脅かさない、しゃべらないお母さんには一切こちらから声はかけません。子供と黙々と遊んで帰るお母様もいらっしゃいます。でも、何回も来ているうちに口を開いてくれます。それまで待つ。私たちは待ちの姿勢でお母様たちを支援していきたいと考えて、今、活動しているところです。

以上です。ありがとうございました。

○**西村委員長**　ありがとうございました。

これまで説明をいただきました内容につきまして、まず、委員の皆様よりお伺いしたい点があればお願いをいたします。まだ……。ちょっと待って。補足があります。

○**片野坂代表**　済みません。少し資料がつくってありますので、もう少しだけお時間をいただければと思います。

７ページになりますが、私たちがなぜこういう団体を組んだのかというようなことと、これから少しどうしたらいいかなというようなことも含めて、お話をさせていただきたいなというふうに思います。

非常に、子ども・子育て支援について、社会資源と言われるものがありますが、県民としてできることは何かということで、少し考えてみたところでございます。社会資源と言われるものには、公的資源と地域資源がありますが、公的資源というのは、もう本当に行政の制度に沿った支援であります。

10ページになります。「地域資源の活用」ということで、ＮＰＯ団体とか、それから企業のＣＳＲ、その辺の方たちがそれぞれの目的を持ってさまざまな活動をしているということです。

ただ、しかし、現在ある資源をどういうふうに活用していくのかということは、もっともっと情報交換や交流をしながらやっていかないと、活動の幅、それからその団体の広がりも少ないのではないかなというふうには思っています。

今ある、「現在ある資源を活用した仕組み」というか、サポートしてくれるところも実際あります。例えば、まちづくりの中にコーディネーターがいらしたりとか、それから、県の中では

ＮＰＯ活動支援センターがたくさんの団体を抱え、人材も把握をしています。ほか、宮崎市の市民活動センター等ありますね。それから、市町村のボランティアセンター等々もありますし、個人と個人をつなぐものであればファミリーサポートセンター、それから緊急サポートネットワーク等々があるかなというふうに思っています。

このように、人をどうつないでいくかということは非常に大事なことではないかなというふうに思っています。

「地域のつながりを新しくつくる」という考え方の中では、まだまだ資源の活用ができていないのではないかなというふうに考えています。

「今ある資源を活用する」ということで、子育てに関しては、地域の子育て支援センターは非常に県内の中では充実しているというふうに思っています。児童館、児童センター等もありますが、そこの人材育成という意味では、地域の拠点として、地域とつながることができる職員の人材育成も非常に必要じゃないかなというふうに思っています。

それと、「地域資源の連携、協働」というところでは、今回の子育てフェスティバルなどを通して、さまざまな企業、大学等々、ＮＰＯともネットワークを通してお互いを知る機会をつくるというようなことがあるかなと思います。

それから、「多様な主体との協働」ということで、宮崎県が進めておりますけれども、行政と財団、社団、企業、ＮＰＯ等、それから地域が連携をすることで、もっと子育てに関して十分にそこのところを重点的に協働をしていきながら、例えば今、未来みやざき県民運動推進協議会の参加団体数の拡大を進め、子育てに優しいまちづくり等々を進めていければいいかなというふうには考えております。

一つ、先ほどから出ています子育て応援フェスティバルの開催等につきましては、やはり「協働」というところが私たちにとっては大事な２日間ではなかったかなというふうには思っているところです。76団体が参加いたしまして、企業も17企業の方が参加して、子育てに関して同じ場で共有をしたところでございます。

写真につきましては、13、14、15と写真が載っておりますが、未来みやざき子育て表彰も同じ日に行われたところでございます。

「子どもの育ち・子育ての充実」に関しましては、社会全体で取り組むことは当たり前のことでありますけれども、ここに１、２、３、４、５、６というふうに書いておりますが、１の「社会全体の責任」、それから「家族の生活基盤の安定化」、それからやはり「地域が幸せである」というようなことを書いております。これはやはり子供たちというか、家族に関して、こもった家族、それから非常に一人で子育てをしている家族に対してどういう声かけができるかというようなことも非常に重要ではないかなというふうに思っています。

やはり支援だけでは非常に不十分だというふうに思っておりますし、親も学ぶ機会をつくるということも非常に大事なことで、親としての自信を持つということがこれからも必要になってくるんじゃないかなというふうに思っています。

私たちの今、支援をずうっと続けてきまして、子育て支援というのは非常に幅広く、充実したものになってきていますけれども、本当に支援するだけでいいのかという声も今、上がっているのは、先ほどのお話でもあったかなというふうに思っているところです。

暮らしは親と子の育ちの場であるということで、経済格差に関係なく、地域の暮らし、本当に暮らしが豊かであることが大事ではないかというふうに思っているところです。

次からの、20ページからの写真につきましては、文化センターのほうでやっているようなことを写真に撮りましたけれども、親にとりましては学習会やサロンの場の提供が本当に十分である必要がありますし、子供は地域の中で、さまざまな人との出会いを通じて育つというふうに思っております。さまざまな体験が必要なことと、人との出会いが非常に大事ではないかということで写真を載せました。

これからですけれども、24ページの、「これから」というところでは、先ほど申しましたように、支援者も学習、それから交流が必要だということと、今、コンシェルジュというようなことがありますけれども、こういうこと、世話焼きおばさん的な人たちの、先ほどのお話がありましたように、シニア世代の人たちがやはり世話焼きおばさん、おじさんになってほしいなということですね。それから、子育て応援のフェスティバルの開催等の充実と継続ということが求められるかなと思っています。それと、子育て支援センターがせっかくありますので、地域に開かれた支援センターであってほしい。それはやはり職員の方の地域との関係づくりが必要かと思います。それと、親の学びというところで、教育委員会の生涯学習課が今、コーディネーター、それからサポーター養成、それをつくろうとしていますので、そこに参加をしたり、学べる場をつくるということにお手伝いできたらいいかなと思っているところです。それから、子育て支援コーディネーターの養成ということで、昨年から宮崎県が地域福祉コーディネーター養成講座に子育て支援のコーディネーターの養成も重ねておりますので、こういうところに私たちも参加をしながら、もっともっと地域の中で活動することと、それから、私たち自身が権威を持つということではないのですけれど、何かやはり資格を持って発言することの必要性ということがすごくあるというふうに感じていますので、資格を取ったり、養成講座に参加しながら、県と行政と一緒にこのことを進めていくんだということが欲しいかなというような意見もちょっと出ましたので、このことを書かせていただきました。

済みません。ありがとうございました。

○**西村委員長**　ありがとうございました。

委員からの質問をお願いします。

○**渡辺委員**　ありがとうございました。実は、私も加わっている幼稚園のお父さんの会が、この間、未来みやざき子育て表彰をいただきました。ありがとうございました。

今、いろいろ御説明伺っていて、世代間で経験として持っていらっしゃるものを新しい、自分の直接お子さんたちじゃなくても引き継ごうというような狙いのものや、また、お父さん、お母さんたちが楽しみながら自分たちもやることも含めて、さまざまな種類の活動があるかと思うのですが、今、片野坂さんの御説明の中にもありましたが、例えば地域で公民館単位だったりとか地区社協だったり、いろいろな取り組みを見ても、やはりさまざまな形で皆さんの思いがあって、何らかのお手伝いだったりとか、大仰にやる必要はないけれども、ちょっとでも声がかけられるような取り組みができれば、たくさん地域でもいろいろな形で用意されていると思うのですが、一番の問題点は、そこへ積極的に出てこられたり参加をされる方々は、ある

意味は安心という言い方は変かもしれませんが、だけれども、本当に何か勧誘ができたらいいなというところになかなかうまく行き着かない、たどり着けないっていうことが、多分、取り組まれてらっしゃった皆さんの一番、要するに難しさだったり思い入れもあるんじゃないかというふうに思ってます。一部そこについてもお話がありましたけれども、その点に絞って考えたときに今後どういうことが考えられるのか。また、行政であったり議会であったり、そうして、そこに何ができるのかという御意見があったらお伺いしたいっていうことが１点なのと、もう一つ、先ほど「うづらａｉクラブ」さんの話の中で、地域の統合型スポーツクラブをやりつつ、そこを一つ核というか、活動の柱としながら多分いろんな運営をする上でも、財源的な面も含めて担保していくためにはそういう取り組みも必要だということで、そういう工夫というか、いろいろなものをあわせてということがあるのだと思うのですが、地域の総合型スポーツクラブ自体も、「ｔｏｔｏ」の補助金が切れる時期が来たりすれば、なかなか運営難しいということも実情としてあると思うのですが、それだけのことに限らず、皆さんのグループであったり、いろんな取り組みを維持をしていくという面での御苦労もいろいろあるかと想像するんですけれども、その辺の実態のところもお伺いできればと。２点お伺いをしたいと。

○**西村委員長**　答えられる方から。

○**留野代表**　現在の情報に敏感なお母さんたちは、非常に学習力が高くて、いろんな講座とかに参加されるんですけれども、本当に必要なところに出ないというところは、きょう、ここにいろいろな団体来てますけれども、これ以上にもうさまざまなサポート支援があって、小さなことから大きなことまで、あと所得とか、それぞれの家庭に応じてサポートしてほしい内容も違って、それらのものは非常にニーズが幅広くあると。それらの情報が必要な人の鼻先まで届いていないということが一番のネックかなと。１つ突破口を開いて、１個何かに参加していただけると、次から次に芋づる式に情報が開けてとれていくというところで、まずは興味のあるところから入っていただいて、どんどん学習に入っていただけるようにというのが強い思いとして現在の問題点としてはあります。

私もＮＰＯ法人の「みやざきママパパｈａｐｐｙ」の副理事をしていますけれども、この子育て支援のさまざまな活動をできるだけ知っていただきたいということでフリーペーパー――紙媒体でやるっていうのは、お母さんたちはパソコンを使うことができないと、赤ちゃんの面倒を見ないといけないので、パソコンが使えないので、情報源としては紙のほうがいいと、友達同士で渡したり、回し読みしたりとかもできると。今、補完する年４回の間の情報はインターネット放送で番組を自費で、あとは、企業ＣＳＲということで、企業さんと協力してさせてもらってるんですけれども、お母さんたちはかなりスマートフォンとか利用が大きいと。各ライフスタイルも違うので、いつ見るかもわからないので、アーカイブでいつでも見れますよと。ＳＮＳなどでの情報共有もできるというふうにして、例えばインフルエンザがはやってる時期ですよと、予防接種が始まりましたといったお知らせを番組を通して各共有していただいて、それ以外の情報についても紹介したり、フリーペーパーのほうでは、子育て応援企業のカードの利用の紹介をしたりとか、そういうふうにだんだんに入っていけるように紹介をしていって

いるところなんですが、何せ自腹でやっているという状況なので、その辺がもうちょっとうまく、大きくできるといいのかなという感じはしています。

○**宮崎理事**　済みません。維持費という点で、「ＭＩＹＡＺＡＫＩうづらａｉクラブ」がお話をさせていただきます。

維持費につきまして、総合型スポーツクラブといたしまして参加費だとか会員の費用、そういったものを、年会費だとかを会員数をふやしたりという点で、あと、ふれあい農園活動も行っておりまして、そういった販売、させていただいておりましたり、あと資源回収、年に１回、御協力を、地域の子供たちの活動費のために御協力をお願いします。御理解を得ていただいた施設、学校等に回りまして、段ボールや本などを回収させていただきまして、そういった活動費に充てさせていただいております。また、地域の特産物を販売いたしまして、また、そちらのほうは地域の活性化にもなりますので、そういったものも利用させていただきながら、地域のイベント等に積極的に販売して収入を図っております。まだまだ、「ｔｏｔｏ」の助成だけではやはり難しい点もございますので、いろいろな助成などございましたら、積極的にお申し込みさせていただきながら、そういった助成なども利用させていただいておるところでございます。

以上でございます。

○**二見代表**　済みません。先ほど「みやざきママパパｈａｐｐｙ」からの情報発信というところでは留野のほうから説明させていただいたのですが、出てこれない方への支援というところで、きょうは来ていないのですけれども、ＮＰＯ法人ドロップインセンターのほうがホームスタートという事業を行っています。これは、今、乳幼児全戸訪問とかがございます。保健師さん、民生委員さんが、生まれたばかり、赤ちゃんを産んですぐのところに伺って、いろいろお話を聞いたりするんですけれども、保健師さんとかが行かれて、うん、これはちょっとリスクがあるかな。例えば、双子ちゃん、三つ子ちゃんだったり、周りに助ける方がいなかったりとか、県外から見えてて頼る方がいないというところの方にお勧めをして、ボランティアが週に１回、２時間程度伺って、そのお母さんの話を傾聴、お話を聞くことによってお母さんがリラックスしたり、ボランティアさんからいろんな子育てのちょっとしたコツ、おむつのかえ方だったり、ミルクのあげ方だったりということを聞きながら、あとは子育て支援センターの情報を聞いたりして、その支援センターもなかなか１人では行けないのでビジターさんが一緒に行くと。そこで直接もう支援センターとそのお母さんがつながれば、その後はもうお母さんが１人でも行けるようになるというような事業をしております。これが結構、お母さんはやはりすごく元気になられて、週に１回、２時間、これが大体４回で１クールになるんですけれども、大体その４回ですごく元気になられて自立されるという報告を受けてますので、そういう事業もありますし、それこそ延岡のほうの「おやこの森」さんも、小澤主任がＳＯＳが出たらすぐに伺ってお話を聞いているようなことをされているので、やはり「待つ」支援も大事なんですけれども、「届ける」支援、もう今はそういう、もう出てこれない方にもそういう情報が届けられるような支援というものもちょっと必要なのかなというふうに感じております。

以上です。

○**曽山代表**　失礼いたします。先ほど渡辺さんの御質問ですが、いろいろな支援団体がふえまして、いろいろな支援をしております。

いろいろな講演会をしたり、お勉強会もいっぱいふえておりますが、それになかなか参加しないお母さんたちがふえてますね。それで、県外から来たお母さんたちもどこに相談していいのかわからないという状況で、でも、わざわざ相談に行くのは面倒くさいという方、そこもしないという方が孤立化していろいろ虐待とかあっていますが、問題になっていますが、私が理想とするところは、やはり昔、私が育った昭和初期のような地域社会を活用することじゃないかと思っております。もちろん育児書に載っているような立派な育児っていうのはなかなか人間できませんので、やはり普通の生活の中に育児があったり、アドバイスがあったりしてほしいと思うんですね。そういったときに近くの公民館であったり、小学校の空き教室であったり、そのようなところを利用して、ある程度、期間はいろいろ予算の関係であると思いますが、特定の場所を設けて、そこに行けば、悩みがなくても遊びにも行けるし、おしゃべりもできると。そういう中で、私はやはり、いろいろな虐待もそうですが、育児不安もそうですが、そういう悩みが出てくる前の予防ですね。いつも楽しくお母さんが生活して育児をやっていたら、いろいろなことが、問題が起こらないと思うんですよ。何かあったときは、あそこに行っておばちゃんに話を聞けばいいとか、あそこのおじいちゃんに話聞けばいいという感じを、そういう体制づくりというか、地方づくりをいつも目指してるのですけれど、そのためにはやはり公的な支援というか、私たちみたいにボランティアだけでやってくれてるというのはなかなかもう少なくなってるんですよね。やはりちょっとしたお小遣いぐらいいただかないと協力してもらえない若い方がいらっしゃるので、そういう予算を少しいただくと、そういう場所がつくりやすいのかなと思っております。

その中に、先ほど片野坂さんのほうからも話がございましたが、地域福祉子育て支援コーディネーターをちょっと資格にしていただいて、そういう方をいっぱいふやしていただいて、そういう方をそういう場所にまた派遣していただいて、いつでも雑談しながら――悩みというものはもうすごい深刻な悩みじゃないんですよ、子育ての悩みというものは。例えば、うちの子がおっぱいを少し飲まないんですよとか、ちょっとおっぱいを飲み過ぎて太っているんですよとか、そういう悩みなんですよね。そういったことをおしゃべり程度に相談できれば、いろいろなことで、もう80％ぐらいは解決できるのかなと思っておりますので、そういったときに、やはりコーディネーターという資格を持った方が、そこにいらっしゃるといらっしゃらないとでは、やはり自分のしゅうとから聞いたり、自分の母親から聞いたしつけでは、まあって、お母さんもちょっと軽く見がちですが、ちょっとそういう資格を持った方がいらっしゃると、ああ、あの先生が言ったからこうかなというふうな効果があると思うんですよ。そういう方をいっぱいふやしていただいて、組織づくり、そういうグループみたいなものをつくっていただいて、やはりそこの中で学習とか講演会はもちろん、コーディネーター自身はさせていただくような、そういうふうな組織づくりをお願いしたらなといつも思っているところです。ありがとうございました。

○**岩切代表**　出てこないお母さん方にどうやっ

てアプローチするかということは、永遠の問題だと思います。どこの地域でもいることだと思います。そういうお母さんたちにどう接していいのかということは、私も常々考えるところなのですが、まず、ちょっと嫌らしい話なんですが、例えば特典をつけて、無料で何かあげますよって言ったときに、おむつでも何でもあげますよと言ったときには、わっとお母さんが群がったりするので、そういったのをあげますよというイベントをしながら、そこで勉強会をするとか、そこで交流をするということも考えてみました。ベビーマッサージの講座をするときも、受講料を払うという講座には、10人のところが20人だったりするんですが、公民館で無料で同じ講座をしますよとすると、10人のところに50人ぐらい集まったりするという無料の特典の効果があります。

ですから、そういったところも考えるのですが、ちょっと目線を変えてというか、ちょっと変えて私の中で考えてみたのですが、小中高の時代に赤ちゃんに触れ合うとか、年下の幼児さんに触れ合うこと、そういう経験がないということも、こんなことしてる私って大丈夫なのということ、家庭の中でこういう育児をしていて、これって相談したら笑われるんじゃないのとか、そういったことでなかなか相談できず、こもってしまうこともあると思うんです。

それと、皆さん、先ほど言われてるように、地域とのつながりがないから、「ちょっと助けて、おばちゃん」みたいな感じの、隣にすぐ言えるコミュニケーション能力も大分低下している気がします。実際私も小学校６年、中学校２年の子どももいるんですが、子ども同士の会話を聞いていてもコミュニケーションが低い気がします。いろいろな、今の時代ゲームもはやってるので、昔ほど体を使ってということはなかなかないのですが、あったとしても必ずゲームを持っていく。ゲームがコミュニケーションになっていってしまったりということもあるので、そういった若年のときに子育てにアプローチする、コミュニケーションを上手に使うということをしていくと声をかけやすいのではないかと、「助けて」を言いやすいんじゃないかなという考えを持ちました。実際小６で上手な断り方という道徳の時間に、それを議題にしていました。そういったことが道徳の議題に出てくるんだなということを見て、今の時代、多様化して考えないと、一つの問題に対していろいろなアプローチをしていかないと、多くは変わらないのではないかなと考えます。

○西村委員長　ほかに。

○河野委員　ありがとうございます。先ほど「まのて」さんのほうから、成り立ちのときに御自分の志を実現するということで、男女参画のチャレンジ相談ということでされたということと、あと、商工会関係で制度的なものでしょうか、そういう支援を受けて成り立ったというお話があったのですが、もし、わかれば、各団体、成り立ちのときに相談した関係機関というのでしょうか、それとか行政の、この制度を利用しましたとか、そういうことがわかったらちょっと教えてください。成り立ちの部分でちょっと教えてください。

○西村委員長　成り立ちの部分での行政関係機関の支援ですね。

○二見代表　では、済みません。「みやざきママパパｈａｐｐｙ」から申し上げます。

私の団体は、最初に申し上げましたように、長友宮子前理事長が立ち上げたものなのですが、これはもう個人的にママ友が欲しいという理由

で立ち上げました。彼女が出産したときに、周りの友達にママ友がいなかった、どうしよう、ということで立ち上げたんですけれど、県外にはそういうママたちが情報誌をつくって情報発信をしたりとか、企業とつながってという団体が結構あるんですね。それで、福岡にありますフラウという会社の濱砂社長のところに長友が何回も伺ったりして話を聞いたりして、形ができ上がってきたのかなと。今でも私たちの団体は、今、マミーズ・ネット、全国ネットというものがありまして、さまざまな県でこういうママたちが情報を発信しているという団体でつながって、今でも情報交換を毎月行っているところです。ですから、もちろん行政、宮崎市の子ども課だったり子育て支援課、また、県のこども政策課さんともつながって、いろいろな情報をいただきながら、今のニーズに合った支援というものは自分たちで模索しながら、今つくっているところであります。

以上です。

○原田代表　「ままのて」です。済みません。

私の場合は、男女共同参画課のチャレンジ相談室に伺って、そこで思いを伝えた段階で「ビジネス性がありますね」というお話をいただいて、私が中心街でという思いがありましたので、商工会議所の企業担当者に橋渡しをしていただきました。その段階で中小企業支援者のシステムで、コンサルタントの方が半年間ついていただき、その後も１年間、アフターフォローをやっていただきました。

その半年間の支援を受けている間に、私は社会貢献のほうの思いが強かったので、ＮＰＯ宮崎県活動支援センターさんのほうで、地域人材づくりというＮＰＯの勉強会が半年間ありましたので、そちらのほうも同時にお勉強させていただき、両方のお勉強させていただいた上で、宮崎市の中小企業新規事業者向けの融資制度というものを銀行さんのほうから御提案いただきまして、そちらのほうの融資制度を受けさせていただいて、一応こちらを３年前に立ち上げたという形になります。

その後も立ち上げにかかわっていただいた団体様、先ほど申し上げたところは、ずっとフォローアップということを、期限は切れておりますが、やっていただいておりまして、私どものほうも一応いろんなことでお手伝いをさせていただいてるという段階にございます。

○岩切代表　私どもの団体は、保育士とか看護師とかそういった個々の人たちがベビーマッサージをしています。ベビーマッサージをするに当たって、その勉強をもっとしたいと、子供たちに対して勉強をしたいので、勉強をするには講師を呼びたい、それにはどうやって呼ぶかということで、点ではなくグループで集まって呼ぶということで団体をつくろうということになり、市民活動団体に登録させていただきました。ですので、いろいろな講座をするときにばっと集まって、また解散するというような、解散はその講座が終わったらです。このような感じですで、特に「ままのて」さんのような大きな形ではやっていませんので、手軽にできました。

以上です。

○留野代表　「ままのて」でちょっと重複してしまうんですけれども、「ままのて」は「ミヤマパ」ですね、情報誌です。お母さんたちがもう毎年毎年、新しいお母さんたちが出てくるということで、スマートフォンを使ったといったような時代の流れなどもここ二、三年の話です。フリーペーパーのほうがいいか、スマートフォンのほうがいいんじゃないかというようなこと

は、お母さん自身のお話を聞いた上でそうしていくと。ということになると、ある一定期間の助成金事業であったりすると、計画がありますよね。その上で、じゃ、途中からインターネット放送を始めますというわけにはいかないので、ここはもう自分たちでやっていくしかないなと。臨機応変に動きのとれる運営をしていかなければいけないということで、民間企業さんとタイアップをすると。お母さんたちを専門に相手にしているという業者さんがいらっしゃいますので、化粧品であるとか美容室であるとか、そういったところはフリーペーパーという媒体は広告ＰＲの媒体ということで使っていただくと。企業ＣＳＲという自分の身を、血を削って、企業さんもなかなか運営しにくい、協力もしにくいので、民間企業さんにも利があるというような仕組みをこちらのほうでつくって、お互いに相乗効果が上がるような仕組みをつくるということを内部で考えてやってます。これを支援してくれるようなアイデアの宝箱みたいなところがあると、非常にほかの団体さんも活用できるんではないかなと思います。継続的な運営もしやすいんではないかということを感じます。

○曽山代表　「どんぐり」です。

私、宮崎県青少年男女参画課の「元気な宮崎づくり100人委員会」というのがございまして、それに参加いたしました。それで、いろいろなことを勉強いたしまして、私、もと保育士ですので、子供福祉に関することを勉強いたしました。その中で少子化の問題とかいろいろな、虐待の問題だったり、しつけの問題だったり、いろいろな勉強をいたしまして、その中でもう自分も60前だし、何か死ぬまでにお返しをしなきゃいけないないうと思いがありまして、自分で勝手にグループをつくりまして、お友達をみんな連れてきました。そして、このようなことをするから協力してという感じで、いろいろな規則を適当につくって、財政のほうは自分のところに、もう金のなる木があるものですから、それで一人でずっととってきてしました。事務長を主人にさせまして、最初のほうはパンフレットをつくって、こういうグループです、よろしくということを、月に２回やってます、公民館ですというパンフレットをつくって、100枚つくりまして、いろいろな行政のところだったり、お店だったり、毎月配って歩きました。最初いろいろなことを計画しておりましたが、だんだん、そのときに宮崎市で「るり色のどろだんご」という情報誌をつくってくださって、その中に入れてくださって、それを見て、見ましたという方が来てくださるようになりまして、すごく人数がふえるようになりましたので、私ももうそろそろ金のなる木が枯れたかなと思って、そっちのほう、もうＰＲをやめましてしておりましたら、市立公民館のほうでぜひ子育て支援をやってくれということで、今、前期に講座をさせていただいて、そのときに講師のお礼と子守のお礼を若干いただいておりますので、それでちょっと運用、ここ８年になりますがしております。

それで、内容は保育士と教師が中心なのですが、うちの特徴は、会員もないし、その日の朝に、あ、どんぐりに行ってみようかと思ったお母さんがいたら来てくださいということが方針ですので、何も規則もつくっておりませんが、中に参加していただいたら、参加する上でのやはり常識的なことを厳しく言っております。そういうことです。ありがとうございました。

○宮崎理事　「ＭＩＹＡＺＡＫＩうづらａｉクラブ」では、当時小学校６年生の女の子が陸上をしたいということで、今、スポーツ少年団さ

んのほうで陸上ということはなかなかやっていらっしゃらないのですね。ですから、そういった場を提供しようということでつくったのが成り立ちになっております。私のほうが代表ではございませんので、ちょっと関連機関といいますか、そういったことはちょっと詳細はなかなかはっきり申し上げられないのですが、総合型スポーツ地域クラブといたしまして県ともつながっておりますし、あと市民活動団体といたしまして市もそうでございますし、地域のスポーツを通しまして体育協会さんだとか、いろいろな方々とつながってさせていただいております。

以上です。

○片野坂代表　「みやざき子ども文化センター」は、もともと親子劇場のメンバーでつくった団体でございます。2000年に、本当に子育てが終わった者たちが集まって子供たちの支援をしようということで、20名程度でこの団体をつくりました。

そのときに、やはり私たちの文化センターの事業の内容をＰＲするには中心街がいいだろうということで、中心街のところ、２丁目のところでしたけれども、事務所を構えさせていただく経過のところでは商工会議所さんに御協力をいただきまして、場所を見ていただき、オーナーの方に賛同していただき、お家賃を少しお安くしていただいたということです。

それからにつきましては、中心市街地でしたので、ちょうど中心市街地のいろいろな問題もありましたので、中心市街地に子供たちを呼び戻そうということで、教育委員会と、ちょうど週５日制になるところで、子供たちの土日対策をどうするかというようなことがありましたので、その流れの中で教育委員会、商工労政課さん等々の御支援をいただきまして、町なかプレイバックみたいなことで商店街を利用した子供たちの出会いの場をつくったところでございます。それが一番の、最初の出だしではあります。

以上です。

○西村委員長　ほかにないでしょうか。

○前屋敷委員　きょうはありがとうございます。私も一応子育てをしてきた経験はあるのですが、なかなか当時を振り返るとやっぱり大変だったなって思います。

そういった中で、それぞれの皆さんたちが本当に真剣に子供たちの行く末を考えて、今のお母さんたちをどうサポートしようかということで真剣に活動しておられることに本当に敬意を、もう本当に表したいというふうに思います。

そして、ネットワークでつながって、それぞれの特色を生かして、だからこの子育てネットワークをずうっと続けていくということは本当にエネルギーの要ることで、お互いが協力し合わないと、自分ところだけではだめなわけで、本当そういった意味ではこのつながりというか、もう人と人とのつながりを言われましたけれど、本当大事にしていただきたいなというふうに思うところです。

それで、さまざまなサポート支援があるんだということを言われて、皆様方のほかにもいろいろなこういう活動もされていらっしゃる方がおられるんでしょうけれど、そういう活動の中に、若い悩みを持ったお母さんたちが、その場にどうたどり着くかということだというふうに思うのですね。いろいろなペーパーを使ったり、インターネットを使ったりで、情報といいますか、啓発といいますか、そういう発信をされておられるところだというふうにもうずっと今、お話もお伺いしてきたのですけれども、どんどんそれがずっと広がっていっているものなのか、

何かやはりネックがあるものなのか、その辺のところが見えたらいいなというふうに思うのですけれど、その辺の悩みはどうですか。

○留野代表　今、フリーペーパーは年１回、１万部にことしからなりました。県内全域ですね。インターネット放送については、インターネット放送をしてくださる会社さんに無料提供していただいて、私ももともと番組制作とかをやっていた経験がありますので、スタッフのお母さんに出演していただいて、自分たちで取材して、私が撮影して編集して、インターネット放送の機材を借りて放送させていただいてると。

ただ、私も本業というか、仕事がありますので、なかなかそれに集中できない。けど、やらないと始まらない。これに従事するスタッフができるのであれば、もっと充実した情報発信もできるということは感じてます。

少しずつではありますけれども、インターネット放送なので、さっき、東京のほうとのつながりもあるのですが、向こうからも関心を持って見ていただいていると。１回放送すると、もうすぐに500、600ぐらいのいいねがついたりします。いいねがつくのは大体10分の１ぐらいなんですね。5,000人、6,000人の方々が見ているということは数値的には出てるんですけれども、ただ、もっと充実した内容をつくるには専門のスタッフを確保する必要があるのかなと。

ただ、その番組にスポンサーをつけたりとか、そういうことができるといいんですけれども、何せお母さんたちでやってるものですから、フリーペーパーも広告をとりに行くのはお母さんたちが合間合間に行って、営業も行って、原稿もつくって、原稿をつくってフリーペーパーの冊子をつくるのは、もと印刷屋さんのデザイナーをやってたお母さんが、出産を機に一回退社をされると、その次の再就職までのつなぎとして何もしないと忘れちゃうので協力しますというかたちでやってくれていると。もともとプロですので、そういった人材の活用もしながら、また再就職にも活用していただくという流れをとっているのですけれども、なかなかまだそこの、安定してやれるといいなという気はしてます。

○二見代表　留野から１万部という話があったんですけれども、これはことしに入って。それまでは5,000部でした。宮崎市内を中心に発行しようということで5,000部で発行してたのですけれども、やはり宮崎県内、ほかにもやはり困っている方がいらっしゃるということで、日南から話が来て伺って、その日南のお母さんたちと話をして、じゃ、ここにも置きましょう、都城のお母さんからスタッフになりたいという話が来て、都城に行ってお話をしたら都城にも置いてほしい、だんだんそういうふうに広がって、宮崎県内の中でお母さんたちのほうから情報をとってほしい、この地区にも欲しいというふうにどんどんつながっていったもので、ああ、これではもう5,000部ではとてもじゃないけど足りないということで１万部に、ことしの７月から倍にふやしました。

それでももう、やはり配布すると、大きい店舗さんだと50部ぐらいずつは置けるのですけれども、ほかは１回につき10部ぐらいずつしか置けないものですから、もう一気になくなってしまって、やはり３カ月で１回ということで、２カ月ぐらい空白の期間があるという。また、そこを補うためにも今、インターネットテレビをしているのですけれども、私たちは子育て支援センターとか子ども課とかにも置かせていただいているんですが、そこに行けない方にやっぱ

り情報を届けたい。外に出ていいんだって、私たちをサポートしてくれている団体とかがあるんだということを少しでも知ってもらいたいということで、スーパーだったり、あとは小児科、産婦人科といったライフラインとかに置くようにして、子育て支援を受け取れない方にもそういう情報が届くような工夫はしているところであります。

以上です。

○**片野坂代表**　ネットワークづくりというところですけれども、本当に、先ほど最初にお話ししましたけれども、やっぱり点でしかない私たちですので、いかにして面になって、各団体がそれぞれの方とつながって、本当、情報の一元化ですよね。自分たちの情報を発信するだけではなくて、自分たちに聞かれたこと以外のことも、ここに行けばもっと詳しくわかりますよというようなことを含めるということは、この子育てネットワークだったり、子育てフェスティバルの場だと思うんですよね。その場自体もお客様だけではなくて、この団体同士が交流をすることでもっと相手の支援の内容を知っていただいて、この専門はこちらにというような直接つないであげるような場をつくるということがこのネットワークだったり、子育てフェスティバルだったりします。ここ、本当に10年間の間に150団体ぐらいが行ったり来たりしながら、多分、目的を達成されて団体をもう閉じたところもあるかなと思いますけれども、言えば、当事者の方たちの、当事者目線での支援をされている方たちも非常に多くなってきていますので、やはり私たちはそういう方たちとの交流をしながら、私たちができるところ、当事者ができるところというようなことをお互いに知りながら、このネットワークを、まあ、緩やかではありますけれども、もっと広げていきたいし、県内の中にも、県内の拠点となられる、例えばおやこの森だったり、日向のＮＰＯ法人だったり、日南市の方だったりというようなところあたりとも連携をとりながら、どこに転勤をされるかわからない方たちのためにも、その情報の発信ができるような県外のネットワークづくりというところにも少し目を向けていきたいし、また、少しずつですけれども、現在もつくっているところです。

以上です。

○**曽山代表**　済みません。今の片野坂さんのネットの話でしたけれど、私、このネットが点でつながって、横に私たちはすごく広がったんですけれど、何せ公的な援助がなかなか得られない時期がありました。でも、ここもう４年ぐらいかな。協働ということで県がすごく積極的にかかわってくださる中で、私たち自身がレベルアップをしましたし、まず、一番思うのはやる気が出たんですよ。今までは、こうやってて、何かもうわかってもらえないっていうジレンマがありましたが、もう手をつないだことで力も出てきましたし、すごいスキルアップもできましたが、もう一番効果があったのは、やっぱりやる気ですね。皆さん本当やる気があって、もうその時間には、もう会議のときには時間を割いて来てくださいます。それで、活発な意見を言って、県の方とも話し合って、結果として、フェスティバルがあるのですが、それ以外にも私たちがもう本当にやる気を出させていただいたことに本当にいつも感謝しております。

○**留野代表**　私のプロフィールで、市民活動の応援ということの実行委員長というものがあるのですが、ＮＰＯさんとか、市民活動さんの活動をずっと見ていると、やりたいことが非常に

たくさんあると、あるんですけれども、それの広報が全くできない、わからないっていうパターンが非常に多くて、私は広告業がメインで本業をやってますので、民間企業さんでも難しいのですよね、広報というのは。広告代理店さんとかにお願いをして高額の広報費用を使うわけですけれども、ＮＰＯとか市民活動といったものは、そういったものはほぼ捻出できないので、なおさら広報が難しいということを感じてます。

私は広告業をやっていますが、ほかの広告業関係者がこの業界に、ＮＰＯとか市民活動とかに興味がないですよね。お金のないところには来ないですから、広告関係者は。

そこで、でも行政が行き届かない、民間企業も手を出せないというすき間のニーズが非常に高まって、複雑化して、多種にわたって、誰かがやらないといけない、そこで市民活動、ＮＰＯが立ち上がっていると。

そこにはニーズはあるんだけれども、運営ができないという根本的なものがあって、広報ができない、広報がわからない、広報の必要性を感じていないということを非常に感じているんですけれども、子育てネットワークというところで私たちはフリーペーパーという情報発信をするハブになるんだという位置づけを自分たちで持って、ほかのいろいろなサービスを情報発信する役割なんだよということを感じてやっているところがありますね。ですから、ほかのジャンルでもいろいろ同じ課題はあるんじゃないかなと思います。

○西村委員長　もうあまり時間がなくなってきていますので、ぜひ、きょう、御出席いただきました皆様、今もう既に県、行政等への要望等は幾つか出ておりますけれども、ほかの御意見も踏まえながら、逆に委員の方々に質問とか聞きたいこと、また要望等ありましたらぜひ出していただきたいと思います。こちらからもまた何かあれば……。

○片野坂代表　済みません。時間が余りないので、最後にまとめというところで花野先生にお話をしていただくようにしておりますので……。

○西村委員長　わかりました。それでは、まだこっちの質疑を続けますね。

○太田委員　先ほどフリーペーパーの話が出ましたが、できたらフリーペーパーがあればください。非常に私たちも参考になると思います。ありますか。ありがとうございます。

それと、本当にいかに広めるかということでしょうから、いろいろヒントをいただきまして、いろいろな方が言われましたが、お父さん、お母さん方のハッピーになっておかなければ子育てはできませんよということであれば、夫婦が仲よくしておかなければいけないなと。がみがみ夫婦げんかするような家庭では子供は育たんぞというようなことかなと思ったりして……。私どももいろいろな家庭に行くと、もう玄関先からいろいろなけんかの声が聞こえてきたりするんですよ。娘さんとお母さんがけんかをしているのを見たら、もう、あんた、うちの子じゃねえとか言って、あのようなことを言う声だけが聞こえると、これはどうなるのかなと思ったりするような、そういう人たちがやっぱりそういうネットワークの中でうまく拾われて、悩みを出したりしながら拾われるといいんだがなということもちょっと感じました。

それと、「待つ」という話もありましたけれど、そういう本当にすさんだ家庭は来ないから打って出るんだということもありますが、相談に行かれたときに、こちらの方が言われましたが、「じっと待ってあげるんですよ」ということも

何か安心感が出てくるなというような気がして。「待つ」ということの使い分けをしなきゃいけないのかなということもちょっと学ばせていただきました。ありがとうございました。

○**西村委員長**　ほかにありませんか。よろしいですか。きょうは、議長もお見えですから、議長から何かあれば。

とりあえず質疑はないようですので、ぜひ御意見等あれば。

○**花野教授**　それでは、皆さんの声が本当にお伝えできるかどうかわかりませんが、私なりに、皆さん、いろいろお話をしている中で感じたこと、それから、あっ、やはりこの視点は大事だなというようなところをまとめさせていただきましたので、その辺についてお話をしたいと思います。

私どもがいろいろネットワークを組みながら子育て支援をやっている中で、一番今、感じていることというのは、やはり子育てというものは生活の中で行われるものなので、生活そのものが非常に多様化しているという現代社会の世相を反映しているのかなというふうに思っています。子育て一つにしてもやはり非常にお母様たちがいろいろな情報に振り回されているということもあるのかなと。私ももうおばあちゃん世代ですけれども、私たちがやった子育てとはまた全然違う環境の中で子育てをしているという、とても大変な状況にお母様たちが今、立たされているのではないかというふうに思っています。情報をうまくセレクトできないということもあって、そういったことをやはり整理することをお手伝いする必要があるのではないかというふうに思っています。

一番大事なことは、むしろ、子供は黙っていても、どんな環境でも育っていく、だけど、お母さんたちをどう育てていくかという、このことがやはり課題のような気がいたします。

お母様たちが本当に笑顔で、子供に向き合えるという状況が今、あるのかなというふうに思っています。もう本当に、子供に笑顔を向けているのかな、このお母さん、というようなお母さんにも出会うことがあります。そういう子供さんを見ていると、やはり子供にも笑顔がないような状況ということもあります。

ですから、お母様たちをいかに、お母様たちだけじゃなくてお父様ももちろんそうなんですけれど、家族全体が今のこの暮らしを楽しめる、そんな社会をつくっていかないといけないのではないかなというふうに思っています。

宮崎は、「子供を産み育てやすいまちづくり」ということで随分前から取り組んでおりますけれども、そういう意味で、たくさんの子供、１人ではなく３人、４人、育ててらっしゃる家族もたくさんいらっしゃるんですけれど、そういう方たちが本当に社会的な支援を受けながら、こういう私たちの団体のような、そういう支援も受けながら幸せに子育てができる、そんな社会の実現を未来に持ちながら、私たちが活動をしているというところはあると思います。いかにお母様やお父様たちが子育てを楽しめるか、「今しかない」という、「今しかない」というところをやっぱり大事にしてほしいなと思っています。

保育園に預けたほうがいいかどうかというような質問もよく受けるのですが、今、子供さんにかかわっていられるなら今かかわっておいたほうがいいと思うよというようなお話をよくするのですけれども、やはりその辺も何か、何となく社会が女性進出というところで働け働けと背中を押してるような、そのようなところもあっ

て、何かお母さんたちも働かないと何かいけないんじゃないかみたいなところもまたあるのかなというふうに思っていて、本当にじっくり子供とつき合うというあたりのところに何か気持ちが行ってないというようなこともあると思っています。

そういうところ、親を育てるための支援者のためのスキルアップというところも課題だろうというふうに思っており、私たち自身もいろいろなところで学習して、そしてお母様たちの状況や、それから今の社会の状況の中でどう支援をしていけばいいかというところを学んでいく必要もあるだろうというふうに思います。

最後に、一番大事なことは、やはり「つなぐ」ということだと思っています。私たちのネットワークをもちろんつなぐことも大事だというふうに思いますが、お母様、そして子供、そして社会ということがどうつながっていくのかというところを見据えて支援をしていくということがとても大事だと思いますし、情報提供にしても、ただ一方的に発信してるだけでは届かない、「それをどうつないでいくか」というところも課題だろうというふうに考えております。

そういうところで、まとめのようでまとまっていないのですけれども、私たちは活動を一生懸命やりながら、つながっていきながら、そして必要な人に必要な支援が届けられるような、そのような社会をつくっていきたいというふうに感じております。

以上です。

○西村委員長　今の話を伺いまして多少意見交換したいと思います。

○中村委員　非常にシャイなものですから、これだけ来られると。だから、「質問をどうぞ」とおっしゃったんですが、非常に集中していまして……。

私はもう孫が中学校２年生になりますので、もうじい様ですから、皆様方の、子育ての真っ最中の皆さん方に、もと、とおっしゃってましたけれども。この前、この宮崎の中心市街地の方で、祭りとかをいろいろやってらっしゃる方々が宮崎公立大に講師で来られまして、皆さん方ともネットワークあるのかなともちょっと感じたんですけれど、中心市街地でこういう活動をやってるんだと、子供たちの活動も支援してるというようなことをおっしゃってましたので。つながりが何かありますか。

○片野坂代表　はい。やっております。「Ｄｏまんなかモール」等……。

○中村委員　これ、１時間半ですね、講演がありまして、だから、さっきお話をいろいろ聞いて、あっ、大体同じ人たちだろうなと、つながりがあるんだろうなという気持ちでお話を聞いたのですが、聞いていて、ママ友ができないとさっきおっしゃいましたね。ママ友ができないということは、やはり私は、皆さん方ということではないのだけれど、若いお母さん方が、まず第一に挨拶ができない人たちが多いということですね。

実は、私は自分のことを自慢するわけでも何でもないのですが、もう10年以上になりますけれど、朝７時ぐらいから子供たちが、横断歩道に。もう物すごく多いんですよ、学校に行く子が。横断歩道に３人ぐらいで立っていて、一人一人が旗を持って、信号が変わったら行きなさいと、車が来たらとめるというような形でやっているのですが、その小学校があるいは中学校のお母さん方が、時々、順番があるんでしょうね、１年に１回ぐらいだと、２回か３回だと思いますが、来られるんです。それで、やってい

て、後ろを向いたら、ここにそのお母さんが立っているんですよね。「おはよう」ぐらい言いなさいよって、「おはようございます」ぐらい。ママ友ができるはずがないですね。そういう挨拶ができない。

私はもう、小学校、中学校の子たちに全部「おはよう」、「おはよう」て声かけて、最初は、10年前はいろいろありましたけれども、今はもう完璧に、100%挨拶を子供がしてくれます。子供が挨拶をするのに親が挨拶をできない。これではやはり子育てがうまくいくはずがない。私は今、思うんですね。

だから、これはもう、一つお願いがあるのですが、そういったお母さん方にやはり、まず挨拶のできる人たちをつくってほしいなということで、今つくづく話を聞いていて感じたのですけれど、それがありますね。そしてまた、子供たちは非常によく挨拶をしてくれて言うこと聞くんですよ。ただ、もう親がだめですね。だから、ちゃんとやっていただくことが一つと。

それからもう一つ、私は、障がい者の子供を持っていますが、やはり子育てのときに一番大変だったのは、障がい者の子供に対してつき合いがないということなんですよ。花野先生は、平日、看護大学にいらっしゃるでしょうから、せめて、障がい者の皆さん、遊びにおいでなさい、一緒に遊びましょうよということをしていただくと、障がい者の子を持つお母さん方が非常に一生懸命頑張って来られるんじゃないかなと思うんですね。ですから、そういったこともひとつお願いしたいなということを含めて。まだあるんですけれど、もう時間もないそうですし、まだ、聞きたい人もいるでしょうから。ということでお願いしたいと思います。

○西村委員長　ほかに。

○清山委員　話を聞きながら、すごく難しいなと思って、ずっと考えていて、質問もなかなかできなかったんですけれども、僕も今、３歳と小学校１年生の子供を抱えていて、けさ、幼稚園に３歳の子を送ってきた世代なのですが、先生の最後の話にもあったんですけれども、保育園にやったほうがいいか、そうでないか、そして、情報も整理をしていかなければいけないと。まさに、本当にそう思って、私などはずっと息子が母親と家の中でずっと２人きりでいることがちょっと世界が狭過ぎるなと思いましたから、私などはもう年少の学年から早く、幼稚園にもうやったらって、幼稚園にやって、子供たちの中で学ぶこともあるし、先生たちもいるしという考えで預けたりしたので、だから、そこも非常にそれぞれの家庭で多様な価値観やら考え方があるから難しいし、昔に比べてＳＮＳというような、いろいろなフェイスブックやらツィッターやらブログやら、そういう手段も、あれはかなり発達してきているので、情報は物すごくありふれてるし、皆さん方のような活動をされるにしても、情報発信自体は昔に比べれば随分手段は多様になってきて発達したんだと思うんですけれども、僕などにとっても、じゃ、団体も物すごくたくさんあって、物すごく寄せられる意見も多様で、どれを公的にバックアップすればいいのかという選択も非常に難しい時代になってきていますよね。

だから、一つ、きょう伺った中で、ああ、そうだな、と思ったことは、母親が学校教育の中学校、高校の教育の中で、確かに、子育てに関して実務的な教育だったり、物事を教えてきてもらっていないなということは、岩切さんでしたか、おっしゃっていたことは非常に納得したのですが、私も医療分野で働いてきたものです

から、実際に高等学校を卒業してすぐに、例えばこういう体の不調のときは何科を受診すればいいのかということすら教えてもらっていない。こういうときは泌尿器科に行って、こういうときは婦人科に行ってということすら教えてもらっていない。高等学校になると保健の学習というものは非常に軽んじられていて、だんだん受験にシフトしていって、そういう生理的なことも話もしてもらえないし、ましては予防接種、子宮頸がんワクチンのことも今、話題になっていますけれども、あと、乳がん検診やら、女性は特に男性よりも早くそういうケアをしなければいけないけれども、学校教育の中ではなかなか軽んじられてきていると。

だから、そこは非常に納得がいったんですけれども、やはりそういう具体的で、こうしてほしいという内容を、やはりすごくいろいろな団体がいらっしゃいますから、すごくやはり練って整理していただいて、本当具体的にこういうことをしていただきたいんだということを説得力のある形でどんどん教えていただきたいなと思いました。

もう一つは、昔に比べて圧倒的に高齢社会で、いろいろな社会制度、社会保障、政策、いろいろとシルバーシフトしてきているので、子育て世代はやはり非常にこの世の中、軽んじられるというか、常にそうだと思いますから、僕は、どんな間であっても、子育て世代に対しての予算の配分であったり、いろいろな政策についてはやり過ぎることはないかなと思っていますので、どんどん教えていただきたいなと思ってます。

以上です。

○西村委員長　ほかにないでしょうか。時間もちょっと経過していますが。

○曽山代表　先ほど、中村さんがおっしゃった、挨拶ができないとおっしゃった話ですが、私のサロンでは、できないんじゃなくて知らないんじゃないかと思っているんですよ。そのように考えています。ですから、私たち大人、大人って言うとおかしいですけれど、私たちできる人が挨拶の仕方を教えています。例えば、こうしてこんなふうに挨拶をしようとか、公民館の先生にお礼を言って帰ろうねとか、そうやって具体的に話して聞かせますと、やはりお母さんも意識を持って挨拶をするようになってきますので、皆さんもベテランの方が多いので、そのようなふうにきょうから心がけてくださるとありがたいなと思っております。

○西村委員長　では、予定の時間を過ぎましたので、これで終わりたいと思います。

それでは、一言お礼を申し上げます。

本日は、留野代表以下、もう皆さん方にお集まりいただきまして本当にありがとうございました。皆さんの中にはまだまだ言い足りないこと、もしくは、きょう参加されてない団体の、またちょっと違うジャンルの方の意見も言いたいこともあったんじゃないかなと思います。もちろんまた、ほかの地域で活動されてる方のネットワークもあると思います。そういう意見を踏まえて、きょう、いらっしゃったと思うんですが、限られた時間の中で自分たちの活動を説明するのも精いっぱいだったと思います。きょう、いただいた意見は、また、我々の委員会でも今後の参考にさせていただきますし、また、きょうは、後ろのほうには担当課の方もしっかりと意見を聞いていただいたものと思います。また、これからの子育て支援のために、皆様方の努力に一助でもなれるように、我々も頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、どうもありがとうございました。

それでは、暫時休憩をいたします。

午前11時42分休憩

午前11時44分再開

○**西村委員長**　委員会を再開いたします。

まず、協議事項（１）の次回委員会でありますが、閉会中の１月31日金曜日の開催を予定しておりますが、この委員会が、当委員会において実質的に調査を行う最後の機会となっております。

事前に資料を配付をさせていただきましたが、これまでの委員会活動について振り返っていただきながら、執行部への説明や資料の要求について御協議いただきたいと思います。何か御意見、御要望はないでしょうか。非常に多岐にわたって１年間、調査に調査を重ねてきましたけれど、まだ、ここを残しているというものがあれば。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○**西村委員長**　では、特にないようですので、次回の委員会の資料要求等につきましては、正副委員長に御一任いただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○**西村委員長**　それでは、そのような形で準備させていただきたいと思います。

なお、次回委員会では、報告書の骨子案も協議させていただく予定となっております。

また、これまで委員会が調査活動を行ってきた内容も踏まえながら、報告書に記載する県当局への提言等についての御意見をいただければと思います。この調査内容の冊子を見ていただきながら。強く言っていただきたい点があれば。

暫時休憩いたします。

午前11時46分休憩

午前11時47分再開

○**西村委員長**　再開をいたします。

特にないようですので、報告書の骨子案の内容につきましては、正副委員長に御一任をいただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○**西村委員長**　それでは、そのような形で準備をさせていただきたいと思います。

最後になりますが、協議事項（２）の「その他」で何かございませんか。

○**井本委員**　意見ではないんだけれど、調査をやっていて、こども対策は非常に守備範囲が広かったですよね。私は、特別委員会はもうちょっと焦点を絞らなければいけなかったかなという感じはします。

○**西村委員長**　ありがとうございます。

○**中村委員**　文教警察企業常任委員会であったのですが、その中で、いじめ問題で、国、県、市、それから学校がいろいろと、上から与えられたものをちゃんとつくっていく。一度、あれを文教の委員でない人たちに見てもらってもいい気がするんですよ。我々が意見を言ったことも取り上げていただいて、その骨子を市や学校に回すということでしたが、いい内容の取り決めがなされているようでしたから、また、それも教育委員会にここで、31日に話をしてもらえばいいかなという気がいたしました。

○**西村委員長**　ほかにないでしょうか。その他で自由に御発言いただいて。

○**渡辺委員**　最初のところで言うべきだったのかもしれませんが、この委員会の調査の関係ですが、きょう、お越しいただいている皆さんの取り組みも広い視点で言えば、地域でのいろい

ろ取り組みなのですが、ちょっとばくっとした地域で。今の中村委員の話じゃないですが、本当に、挨拶を交わせるような近い、やはり自治会だったり公民館単位というようなところでも、その地域の子供たちをどう、課題をどう認識して、さっきのお母さんたちの支援であっても、何かやろうという取り組みで、たくさん県内にあると思うんですよね。子育て支援グループだったり、お母さんたちのグループという、ちょっとばくっとした地域よりももっとより深い、いわゆるもっと原核に近い地域の中での何か子供をめぐる取り組みだったり、状況の判断というものが何かないものかなということが１点。

○**西村委員長**　ありがとうございます。

ちょっと休憩いたします。

午前11時50分休憩

午前11時52分再開

○**西村委員長**　再開をいたします。

それでは、以上のことを踏まえまして、また次回委員会等についても検討をさせていただきたいと思います。

次回委員会は、１月31日金曜日午前10時からを予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

本日の委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前11時53分閉会